資料１

第 10 回 日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場建設検討委員会
議事要旨

日時：令和 8 年 5 月 25 日（月）　13:30～15:30

場所：西郷ニューホープセンター（美郷町）

■　出席者

(1) 委員	土手　裕	（元宮崎大学工学部教授）
	大榮　薫	（宮崎大学工学部准教授）
	末次　大輔	（宮崎大学工学部教授）
	原田　隆典	（宮崎大学工学部名誉教授）
	山田　大志	（NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク理事長）
	山下　論	（美郷町花水流地区　区長）
	松本　恵喜	（美郷町花水流地区）
	小野　和久	（美郷町小川地区）
(2) 事務局	平岡　稔	（日向市　環境政策課　課長）
	金丸　哲也	（門川町　環境水道課　課長）
	松本　和志	（門川町　環境水道課　課長補佐）
	鎌田　次郎	（美郷町　町民生活課　課長）
	中田　芳樹	（美郷町　町民生活課　主幹）
	近藤　和房	（諸塚村　住民福祉課　課長）
	黒木　治実	（椎葉村　税務住民課　課長）
	椎葉　洋介	（椎葉村　税務住民課　主幹）
	黒木　悟	（広域連合　事務局長）
	上杉　幸司	（広域連合　局長補佐）
	田口　博彦	（広域連合　業務第 1 係長）
	黒木　俊介	（広域連合　業務第 1 係主査）
	長友　和博	（広域連合　業務第 1 係主査）
(3) ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ	平川　猛	（株式会社建設技術研究所）
	和田　崇史	（株式会社建設技術研究所）
	池田　勇太	（株式会社建設技術研究所）
	前田　悠太朗	（株式会社建設技術研究所）

（以上、敬称略）

■　内容

1 開会

2 委嘱状交付

3 委員長あいさつ

4 協　　議（議事進行：委員長）

（1）前回委員会の確認

（2）基本設計報告について

（3）生活環境影響調査報告について

（4）今後のスケジュールについて

（5）その他

5 閉会

■ 配付資料

■ 資料 1：第 9 回建設検討委員会議事要旨

■ 資料 2：基本設計報告（報告事項抜粋版）

■ 資料 3：基本設計報告書

■ 資料 4：基本設計概要版

■ 資料 5：生活環境影響調査報告

■ 資料 6：今後のスケジュール

1. 開会

◯配布資料の確認

2. あいさつ

◯土手委員（委員長）より挨拶

3. 協議事項

(1) 前回委員会の確認

◯事務局より【資料 1】に基づき説明。

委員　：　種子吹付について、クリーピングレッドフェスクは環境省の侵略的外来種リストに含まれるが使用するのか。

事務局　：　種子の種類は、実施設計で使用する種類を選定することになる。

委員　：　田んぼで使われているイネ科のイタリアンライグラス等を使っていただきたい。

事務局　：　ご意見を踏まえて種子吹付の種子を実施設計で選定する。

(2) 基本設計について

◯事務局より【資料 2】に基づき説明。

委員　：　屋内作業においては作業員の健康被害が懸念されるが、どのように対応する予定か。

事務局　：　作業者の健康リスクとして考えられる酸欠については、酸素や二酸化炭素濃度を計測の上問題ない場合は入室することになる。

委員　：　停電の時の浸出水処理の対応は聞いているが、バックアップのために自家発電の電力に切り替えられるようにしたらどうか。

事務局　：　水処理施設の自家発電の導入事例は殆どない。停電時は散水も行うことができない。水処理運転に伴う電力量は多いので自家発電の導入については考えていない。

委員　：　美郷町は桜の樹木が盛んな地域である。秋には紅葉・楓なども見られる。場内に新たに植えるのであれば、そのような樹種を植えたらどうか。

事務局　：　植林の樹種については、今後の実施設計で調整していく。

委員　：　工事中の濁水処理について、この地域は降雨量が多いことからどうのように考えているのか。

事務局　：　土が露出した状況では濁水が発生しやすく、土砂流出防止が重要である。このため、下流に影響が発生しないように工事中にも土砂溜め設備を配置する。

委員　：　防災調整池で改良土を採用しているが、どのような材料を用いるのか。

事務局　：　改良土はセメント改良を想定している。この改良であれば、盛土内への浸透も防止でき、強度も十分であり、安定性においても問題ない。

委員　：　貯留構造物においてなぜ建築構造物とした方の費用が高くなるのか確認したい。

事務局　：　建築構造物は住居として想定されることになり、人的被害がないようにしなければならず、コンクリートピットを基礎として活用することになり鉄筋量が多くなる。一方、土木構造物は施設の破壊されないような安全性が求められ、コンクリートピットの厚さが厚くなる。このことからそれぞれ考えで屋根も含めた工事数量で積算すると土木構造物としたほうが安価結果となり、土木構造物が優位である結果となった。

(3) 生活環境影響調査中間報告について

○事務局より【資料 5】に基づき説明。

委員　：　河川水質調査において、下流側の位置は放流水の影響が出にくく下流すぎると思うので、耳川流入直下が良かったのではないか。

事務局　：　その場合、採水作業にボートが必要となる。作業性、予算状況を考慮し橋の上から採水することにした。なお、それぞれの位置においての水質変化には影響ないことも確認している。

委員　：　採水地点が採水しやすい位置と言うことで了解した。

委員　：　地下水水質は、鉛やヒ素が検出されている。環境基準以下ではあるが、住民の方は検出されていることが驚かれる。自然由来であり問題ない範囲で安定している結果を示した方が良い。

事務局　：　検出値の調査結果については、自然由来ということを確認したうえで環境基準値以下の安定した水質であることのコメントを追加する。

委員　：　悪臭について、最終処分場建設後に規制地域に変更するようなことはないか。

事務局　：　規制地域は、宮崎県で指定しており、事業者が指定することはない。評価については規制地域の基準を参考とする予定である。

(4) 今後のスケジュールについて

○事務局より【資料 6】に基づき説明。

委員　：　令和 8 年 9 月の建設同意については、地権者の同意も含まれるのか。

事務局　：　この時点では、花水流区の同意のみである。地権者の同意はその後になる。

委員　：　建設地内に農地があったように記憶しているが、転用の手続きは実施しているのか。

事務局　：　美郷町に確認しながら、事業期間内進める予定である。

(5) その他について

◯事務局より説明。

事務局　　：　公開で会議を開催しているため、記者発表は行わない。議事録は後日委員の確認を経て、資料と合わせて公表する。

4. 閉　会

〔了〕